

近畿地方会展開の礎 ～発足の当時を先達2氏に聞く～

地方会発足までの足跡

大阪河崎リハビリテーション大学
学長 上好 昭孝



私が最初整形外科に入局した昭和40年当時“整形外科”でさえ、美容整形と誤解される頃であった。当時は一部の先達の努力にも関わらず、医師でさえリハビリテーション(リハ)への関心がいまだ少なく、医学教育を行う大学ですらその傾向があった。昭和39年故水野祥太郎阪大教授のもと、記念すべき待望の第一回日本リハ医学会がここ大阪の地で開かれ、リハの基盤が築かれた。当時母校和医大でも、リハ科として独立した講座・診療科がなく、整形外科が理学療法室を兼務していた。

当時社会は戦後からの神武景気、岩戸景気とイノベーションによる生産向上からプラスチック製品、テレビをはじめ電化製品が町にあふれ、東京オリンピック、新幹線開通までの国内インフラ整備で日本の生活スタイルが激変し、消費社会になってきたときであった。医療面では戦後復興期の建設ラッシュや繊維工業の隆盛から労災事故や戦傷による四肢切断などの外傷(再接着、患肢温存手術がない時期)が多く、職場復帰のため義肢・装具の開発が大きなテーマであった。幸い私の入局した和医大整形外科でリハおよびプレーズクリニックが行われ、義肢装具の重要性にふれ、早くから装具の開発を研究テーマの一つとして各種和医大式装具を開発し機会あるごとに報告してきた。

この間昭和39年慶応大など大学解体をスローガンとした全共闘運動が全国大学で起こり、医学部でも43青医連によるインターン廃止、非入局などを目指した教授会、市中病院、青医連による三者協議が連日行なわれた。学生運動が大学内にはいり昭和44年の安田講堂闘争では大学への機動隊介入で多くの学生が逮捕されるという戦後最大の学生運動にな

近畿地方会の黎明期

滋賀県立リハビリテーションセンター
所長 藤原 誠



平成20年7月、時満ちて、近畿地方会役員の任を退きました。長年の間、リハ医学会近畿地方会会員の皆様にはご指導・ご鞭撻頂きましたこと衷心より感謝致します。

このたび、近畿地方会のさらなる発展を期して、黎明期を振り返りたいとの依頼がありました。与えられたスペースの関係から、年表形式でご覧頂きます。

【源流1】日本リハ医学会専門医等認定制度との関連で地方会は歩んで来た。

昭和55年5月5日：日本リハ医学会専門医制度制定

昭和62年6月28日：日本リハ医学会認定臨床医制度制定

【源流2】故真野行生先生、川村次郎先生に私も加わって設立された近畿リハ医懇話会が近畿のリハの発展に重要な役割を果たした。

昭和61年10月1日：近畿リハ医懇話会19名で発足、年3-4回研修会を開催

昭和63年1月23日：学術集会を21演題で初開催、研修講演との組み合わせで年1回開催

【源流3】リハ医学会医学教育委員故真野委員以来多くの委員の方々のご尽力と、近畿リハ医懇話会幹事の皆様のご協力のもとに学術的交流が進められた。

平成4年4月1日：認定臨床医生涯教育制度施行

平成3年3月30日：近畿地方の第1回認定臨床医生涯教育研修会開催以降、平成9年4月19日まで、幅広くリハ医学の学習が進められた。

【日本リハビリテーション医学会近畿地方会の発足】

平成8年7月27日：日本リハ医学会から出された会告に基づいて近畿地方会の検討を開始

平成9年1月18日：発起人会開催、規約・世話人承認

平成9年1月25日：リハ医学会役員会の承認を受けて日本リハ医学会に連なる近畿地方会が発足した。

平成9年6月28日：日本リハ医学会近畿地方会発会記念講演会として認定臨床医生涯教育研修会を開催

その後、リハ医学会と直結し、幾ばくかの補助金を受けて、リハ医学会会員全員自動的参加となり、現在の近畿地方会の隆盛へとつながって来た所であるが、さらに次のステージへの展開を祈念する。

った。大学に勤務していたものにとっては研究・診療面で大きなダメージをうけたこといまや忘れられているようであります。

こういったなか川村次郎、故真野行生、藤原誠先生や個性ある多士済々のリハに情熱をもったものの機が熟し、昭和61年末“近畿リハ懇話会”が設置され私も参加いたしました。1年に4回第3水曜日の夕方に集い、話題提供者によるリハ全般に関わる“話題提供”のもとで、議論する会として、平成8年末まで11年間行われてきたところであります。

平成9年1月日本リハ医学会の地方会発足の会告により、近畿地区においても平成9年から従来の“近畿リハ懇話会”を発展的に解消し、日本リハ医学会近畿地方会として再出発し現在に至っております。

この間昭和61年専門医・認定制度制定、平成元年日本リハ学会が財団法人となるとともに平成8年にはリハの標榜診療科が制定されております。

昨今の地方会をみてやっとな先達の努力がむくわれ、今後のさらなる発展に期待している今日この頃であります。